

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 国語 科目 古典探究

教科: 国語 科目: 古典探究 単位数: 4 単位

対象学年組: 第2学年 A組~ F組

使用教科書: (大修館書店「古典探究」(古探708))

教科 国語 の目標:

【知識及び技能】実社会に関わりながらそれを向上させるために必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力および他者との関わりの中での表現力、想像力やコミュニケーション力を深める。

【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ価値を深く認識し、自己を継続的に向上させながら言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【古文編 第I部】 1 説話 十訓抄 【知・技】 (1)エ(2)ア 【思・判・表】 読(1)イ・キ 2 随筆 徒然草 花は盛りに/今はそのことをなさんと 思へど 【知・技】 (1)ア(2)イ 【思・判・表】 読(1)ウ・カ	・和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山…」の和歌を軸に、人物の行動や心情を読み取る。 ・中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・古典などを読むことをとおして、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連するさまざまな古典の作品や文章などをもとに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。【(1)キ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読文学に興味をもち、登場人物の言動などから多様な価値観を読み取るようにしている。 ・古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。	○	○	○	12
【漢文編 第I部】 1 故事・逸話 知音/画竜点睛/漱石枕流 【知・技】 (1)ア (2)イ・ウ 【思・判・表】 読(1)ア・オ	・漢文調読に習熟する。 ・故事成語の意味の成り立ちを理解し、故事・逸話の叙述のおもしろさを味読する。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。【(2)イ】 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。【(2)ウ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の見解と結びつけて、考えを広げたり深めたりしている。【(1)オ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・故事成語に興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
【古文編 第I部】 随筆(一) 方丈記 行く河の流れ 物語(一) 伊勢物語・大和物語 月やあらぬ/姥捨て山 【知・技】 (1)ア・イ (2)イ 【思・判・表】 読(1)イ・カ	・仏教的無常観にもとづく、作者の思想を理解する。 ・対になる表現や比喩などの修辭技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。 ・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。 ・古典作品の再創造としてのパロディ(もじり)の面白さに触れる。 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。【(2)イ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容的確にとらえている。【(1)イ】 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。【(1)カ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・仏教的無常観にもとづく、作者の考えについて理解を深めようとしている。 ・作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。	○	○	○	16
【漢文編 第I部】 漢詩 近体詩 自然・旅情・憂愁・読み比べ 土佐日記(阿倍仲麻呂の歌) 【知・技】 (1)イ・エ 【思・判・表】 読(1)ア・ウ	・近体詩の名作を繰り返し朗読し、漢文独特の口調に習熟する。 ・近体詩の形式や表現、技法について理解を深める。 ・詩人たちの人生観や自然観についての認識を深める。 ・文学作品を鑑賞する能力を高める。	【知識・技能】 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。【(1)イ】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 【主体的に学習に取り組む態度】 ・近体詩について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
【古文編 第I部】 4 随筆(二) 枕草子 すさまじきもの/宮に初めて参りたるころ 【知・技】 (1)ア・エ (2)ア 【思・判・表】 読(1)ア・ウ・エ	・清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わう。	【知識・技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)ア】 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。【(1)エ】 ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。【(1)ア】 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。【(1)ウ】 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係をふまえて古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。【(1)エ】	○	○	○	12

